

令和6年第1回宝塚市議会（定例会）において可決された予算の要領を、地方自治法第219条第2項の規定により、次のとおり公表する。

令和6年（2024年）4月5日

宝塚市長 山崎晴恵

可決された予算の要領

- （1）令和6年度宝塚市水道事業会計予算の概要
- （2）令和6年度宝塚市下水道事業会計予算の概要
- （3）令和6年度宝塚市病院事業会計予算の概要
- （4）令和5年度宝塚市病院事業会計補正予算（第4号）の要領

可決された予算の要領のうち

（1）及び（2）の内容についてのお問合せは、
宝塚市上下水道局経営管理部経営企画課までお願いします。

TEL：0797-77-2104（直通）

（3）及び（4）の内容についてのお問合せは、
宝塚市立病院経営統括部までお願いします。

TEL：0797-87-1161（直通）

令和6年度（2024年度）

宝塚市水道事業会計予算

宝塚市上下水道局



目 次

1. 予算編成方針	．．．．．	1
2. 業務の予定量	．．．．．	1
3. 予算の規模	．．．．．	1
4. 予算の詳細	．．．．．	2
5. 主要施策	．．．．．	4
6. 管路等の耐震化の状況	．．．．．	6
7. 主な経営数値	．．．．．	7
8. 職員の内訳	．．．．．	8

1. 予算編成方針

水道料金について、昭和55年以来の料金改定が令和6年度に行われます。国内外の社会情勢の変化による物価上昇が続く中、使用者にとっては大きな負担増となり、今、上下水道事業に厳しい目が向けられています。そのため、これまで以上に無駄のない経営に努めることとします。

令和3年8月に見直しを行った宝塚市水道事業経営戦略に計上した「管路耐震化（更新）事業」や「配水池加圧所耐震化（更新）事業」を事業の基礎としつつ、配水池を統廃合するダウンサイジングに取り組みます。

2. 業務の予定量

(1) 年度末給水人口 228,615人

住民基本台帳人口は、令和5年4月と令和5年11月を比較して846人減少しているため、年間の人口減少を1,400人と見込み、令和6年度の年度末給水人口を計上しています。

(人)

	給水人口	増減
令和元年度（決算）	233,933	-
令和2年度（決算）	233,194	△739
令和3年度（決算）	231,929	△1,265
令和4年度（決算）	230,437	△1,492
令和5年度（予算）	230,015	△422
令和6年度（予算）	228,615	△1,400

(2) 年間有収水量 22,794,748^m

過去の有収水量を相関分析することにより、令和6年度の年間有収水量を計上しています。

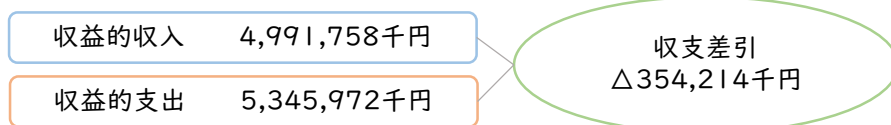
(^m)

	有収水量	増減
令和元年度（決算）	23,158,533	-
令和2年度（決算）	23,672,643	514,110
令和3年度（決算）	23,342,565	△330,078
令和4年度（決算）	22,941,541	△401,024
令和5年度（予算）	23,191,942	250,401
令和6年度（予算）	22,794,748	△397,194

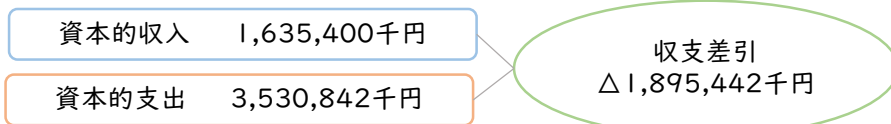
3. 予算の規模

令和6年度の支出総額（収益的支出と資本的支出の合計額）は8,876,814千円で、令和5年度の当初予算と比較して454,925千円減少しています。これは、建設改良費のうち「送水及び配水施設費」が前年度比較で284,889千円減少したことや、修繕費の減少等により営業費用が73,512千円減少したことが主な原因です。

(1) 収益的収入及び支出



(2) 資本的収入及び支出



4. 予算の詳細

(1) 収益的収入及び支出

(千円)

区分		令和6年度(当初)	令和5年度(当初)	増減	前年比(%)	備考	
収 入	1 営業収益	4,343,000	4,054,982	288,018	107.1	※1	
	(給水収益)	(4,130,900)	(3,851,161)	(279,739)	(107.3)		
	(受託工事収益)	(23,695)	(20,027)	(3,668)	(118.3)		
	(その他営業収益)	(188,405)	(183,794)	(4,611)	(102.5)		
	2 営業外収益	647,758	682,814	△ 35,056	94.9	※2	
	(分担金)	(137,899)	(163,413)	(△ 25,514)	(84.4)		
	(受取利息)	(1,777)	(1,177)	(600)	(151.0)		
	(他会計補助金)	(29,804)	(28,995)	(809)	(102.8)		
	(長期前受金戻入)	(449,064)	(461,056)	(△ 11,992)	(97.4)		
	(雑収益)	(29,214)	(28,173)	(1,041)	(103.7)		
3 特別利益	1,000	1,000	0	100.0			
(過年度損益修正益)	(1,000)	(1,000)	(0)	(100.0)			
計		4,991,758	4,738,796	252,962	105.3		
支 出	1 営業費用	4,993,321	5,066,833	△ 73,512	98.5	※3	
	(人件費)	(813,943)	(784,651)	(29,292)	(103.7)		
	(受水費)	(1,380,203)	(1,383,113)	(△ 2,910)	(99.8)		
	(動力費)	(314,863)	(330,937)	(△ 16,074)	(95.1)		
	(薬品費)	(93,829)	(88,096)	(5,733)	(106.5)		
	(修繕費)	(323,787)	(349,532)	(△ 25,745)	(92.6)		※4
	(路面復旧費)	(4,930)	(5,143)	(△ 213)	(95.9)		
	(委託料)	(601,403)	(593,459)	(7,944)	(101.3)		
	(減価償却費)	(1,271,209)	(1,287,349)	(△ 16,140)	(98.7)		
	(その他)	(189,154)	(244,553)	(△ 55,399)	(77.3)		※5
	2 営業外費用	330,651	326,192	4,459	101.4		
	(支払利息)	(194,651)	(190,192)	(4,459)	(102.3)		
	(消費税)	(136,000)	(136,000)	(0)	(100.0)		
	3 特別損失	2,000	2,000	0	100.0		
	(過年度損益修正損)	(2,000)	(2,000)	(0)	(100.0)		
	4 予備費	20,000	20,000	0	100.0		
	計		5,345,972	5,415,025	△ 69,053	98.7	
収支差引		△ 354,214	△ 676,229	322,015			

※1 (増額理由) 料金改定による収入増加額は330,631千円。

※2 (減額理由) 毎年度過去5年間の平均金額を計上しており、収入が遞減傾向にあるため。

※3 (増額理由) 給料2,150千円増、賞与6,080千円増、児童手当2,150千円増、退職給付引当金繰入10,000千円増などのため。

※4 (減額理由) 令和5年度は修繕費に計上していたメータ更新費用について、令和6年度は固定資産購入費(資本的支出)に計上しているため。

※5 (減額理由) 令和5年度に、仮設庁舎賃借料(22,393千円)、阪水運用最適化負担金(19,800千円)があったため。

(2) 資本的収入及び支出

(千円)

区分		令和6年度(当初)	令和5年度(当初)	増減	前年比(%)	備考
収 入	1 企業債	1,560,400	1,773,600	△ 213,200	88.0	
	2 他会計負担金	21,000	17,600	3,400	119.3	
	3 工事負担金	54,000	20,400	33,600	264.7	
	計	1,635,400	1,811,600	△ 176,200	90.3	
支 出	1 建設改良費	1,988,193	2,194,946	△ 206,753	90.6	
	(事務費)	(92,458)	(103,843)	(△ 11,385)	(89.0)	
	(原水及び浄水施設費)	(319,973)	(245,966)	(74,007)	(130.1)	※6
	(送水及び配水施設費)	(1,521,925)	(1,806,814)	(△ 284,889)	(84.2)	※7
	(営業設備費)	(53,837)	(38,323)	(15,514)	(140.5)	※8
	2 企業債償還金	712,649	691,768	20,881	103.0	
	3 投資	800,000	1,000,000	△ 200,000	80.0	※9
	4 予備費	30,000	30,000	0	100.0	
	計	3,530,842	3,916,714	△ 385,872	90.1	
	収支差引	△ 1,895,442	△ 2,105,114	209,672		

資本的収支不足額1,895,442千円は損益勘定留保資金等で補填する。

※6 主な内容は以下のとおりです。

浄水施設受変電設備強化事業 146,200千円 (詳細は5ページに記載)

惣川浄水場苛性ソーダ注入施設更新 40,000千円

川下川ダム空気揚水筒更新 57,200千円

川下川ダム水位計更新 9,580千円 等

※7 主な内容は以下のとおりです。

管路耐震化(更新)事業 920,000千円 (詳細は4ページに記載)

配水池加圧所耐震化(更新)事業 216,200千円 (詳細は4ページに記載)

配水池加圧所機械設備等更新事業 135,000千円 (詳細は4ページに記載)

配水池統廃合事業(右岸地区) 201,300千円 (詳細は5ページに記載) 等

※8 主な内容は以下のとおりです。

水道メーター購入 50,406千円

※9 内容は以下のとおりです。

国債等での資金運用 500,000千円

下水道事業への貸付金 300,000千円

5. 主要施策

(1) 施設改良・更新に関する取組

① 管路耐震化（更新）事業（予算額920,000千円）

管路更新・耐震化計画に基づいて、老朽化した管路の更新・耐震化を行います。

工事場所	内容
千種1丁目外	ダクティル鑄鉄管φ350布設工事 施工延長 L=200m
高司1丁目外	ダクティル鑄鉄管φ300布設工事 施工延長 L=330m
亀井町外	ダクティル鑄鉄管φ150~250布設工事 施工延長 L=1,100m
小浜3丁目外	ダクティル鑄鉄管φ400布設工事 施工延長 L=860m
市内一円	ダクティル鑄鉄管φ75布設工事 施工延長 L=252m

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



② 配水池加圧所耐震化（更新）事業（予算額216,200千円）

更新時期を向かえた配水池・加圧所の更新・耐震化を計画的に行います。

工事場所	内容
宝梅3丁目外	耐震二次診断調査
すみれが丘2丁目外	耐震補強工事実施設計
市内一円	配水池耐震化工事

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



③ 配水池加圧所機械設備等更新事業（予算額135,000千円）

山手下配水池加圧所のポンプ及びバルブ類を更新します。

工事場所	内容
山手下配水池加圧所	ポンプ 3台 安全弁 3台 防振架台 3台

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



④ 浄水施設受変電設備強化事業（予算額146,200千円）

惣川浄水場の受変電設備を更新します。

工事場所	内容
惣川浄水場	受変電盤の更新 2回線受電を設置

予算：資本的支出＞建設改良費＞原水及び浄水施設費



(2) 安心安全に関する取組

① 浄水場活性炭注入施設保守点検業務（予算額6,710千円）

惣川浄水場の活性炭注入施設の点検を実施し、予防保全に努めます。

工事場所	内容
惣川浄水場	活性炭注入施設（貯槽・定量供給機・吸引式攪拌機等）の保守点検

予算：収益的支出＞営業費用＞原水及び浄水費＞委託料



(3) ダウンサイジングに関する取組

① 配水池統廃合事業（右岸地区）（予算額201,300千円）

維持管理費や施設更新費用の縮減を図るため、北畑加圧所、旭ヶ丘加圧所及び生瀬浄水場（ポンプ設備）を新北畑加圧所に統合するため、それに付随する管路工事を行います。

工事場所	内容
野上4丁目外	ダクタイル鋳鉄管φ200布設工事 施工延長 L=1,550m

予算：資本的支出＞建設改良費＞送水及び配水施設費



6. 管路等の耐震化の状況

(1) 基幹管路の耐震化率（口径150mm以上の管路を対象）

導水管、送水管、配水管（口径150mm以上）のうち耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。道路管理者等との調整や現場状況により工事の進捗が遅れていますが、今後は、事業実施体制の強化を図り、管路更新・耐震化計画に基づいて着実に実施します。

（基幹管路延長 L = 348,544m）

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
目標値 (%)	23.6	26.5	29.4	32.3	35.1
実績値 (%)	15.4	16.2	16.9	18.4	19.6

(2) 管路耐震化率（全管路対象）

管路のうち、耐震性のある材質と継手（管の接続部）により構成された管路延長の割合です。道路管理者等との調整や現場状況により工事の進捗が遅れていますが、今後は、事業実施体制の強化を図り、管路更新計画に基づいて着実に実施します。

（全管路延長 L = 813,974m）

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
目標値 (%)	12.6	13.8	15.1	16.3	17.6
実績値 (%)	11.1	12.1	12.7	13.5	14.2

(3) 配水池の耐震化率

配水池のうち、耐震化がなされている施設の容量の割合です。容量の小さい配水池や加圧所の工事を実施していたため目標に達していませんが、今後は、容量の大きい配水池の工事を計画しています。

（配水池数 48カ所）

		令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
耐震化済箇所数（カ所）		12	12	13	14	15
耐震化率 (容量比)	目標値 (%)	52.2	52.2	55.5	59.7	61.0
	実績値 (%)	47.0	47.0	49.1	49.2	50.5

(4) 加圧所の耐震化率

加圧所のうち、耐震化がなされている施設能力の割合。予定していた耐震工事や更新工事を行い、耐震化率は向上しています。今後も引き続き事業を着実に実施します。

（加圧所数 29カ所）

		令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
耐震化済箇所数（カ所）		12	12	13	15	15
耐震化率 (能力比)	目標値 (%)	25.6	25.6	25.6	26.7	28.0
	実績値 (%)	28.9	28.9	32.8	40.1	40.1

※ 目標値は水道事業経営戦略に掲げた数値です。

7. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%未満では損失が発生しています。全国平均は108.7%、類似団体平均は110.0%（令和4年度）です。これらに比べると本市の数値は低く、どの年度も100%を下回っており、安定した経営を実現できているとは言えない現状です。令和6年4月から平均9.5%の料金改定を実施するため、令和6年度の数値は上昇しています。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
経常収支比率 (%)	93.4	92.3	88.2	91.7	96.2

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。令和5年度は未処分利益剰余金がマイナスとなり、欠損金となる見込みです。水道事業経営戦略中間見直しでは、令和7年度に欠損金が生じる予測でしたが、電気料金の高騰による動力費の増加や濁水による受水費の増加等により2年早まる見込みとなっています。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
当年度純利益 (千円)	△290,930	△333,692	△466,861	△398,220	△184,556
未処分利益剰余金 (千円)	1,171,338	837,646	370,785	△27,435	△211,991

(3) 年度末資金残高

現金預金残高としては、令和6年度に前年度比で大きく減少していますが、大口定期等による資金運用として5億円の支出、下水道事業への他会計貸付金として3億円の支出があるためです。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
現金預金残高 (千円)	4,030,269	3,541,313	3,087,797	1,990,342	758,807
大口定期等 (千円)	300,000	0	0	200,000	700,000
他会計貸付金 (千円)	920,000	1,220,000	1,270,000	1,570,000	1,870,000
合計 (千円)	5,250,269	4,761,313	4,357,797	3,760,342	3,328,807

(4) 給水原価及び供給単価

供給単価は1㎡あたりの平均収益、給水原価は1㎡の水道水を作るのに要する費用です。すべての年度で給水原価が供給単価を上回っています。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
供給単価 (円)	131.0	150.5	141.5	151.0	164.7
給水原価 (円)	165.2	179.5	190.0	188.1	189.5
差引 (円)	△34.2	△29.0	△48.5	△37.1	△24.8

8. 職員の内訳

平成30年度（実績人数）から令和6年度（予算措置人数）までの職員数の推移は以下のとおりです。平成30年度に89人いた職員は令和5年度に82人まで削減しましたが、令和6年度は1名増員して、83人の予算を計上しています。

(人)

平成30年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	10	32	32	74
	再任用職員	0	11	3	14
	嘱託職員	1	0	0	1
	合計	11	43	35	89

平成31年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	11	34	29	74
	再任用職員	0	8	1	9
	嘱託職員	1	0	0	1
	合計	12	42	30	84

令和2年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	12	34	28	74
	再任用職員	0	8	2	10
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	13	42	30	85

令和3年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	13	38	27	78
	再任用職員	0	3	3	6
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	14	41	30	85

令和4年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	13	38	28	79
	再任用職員	0	3	2	5
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	14	41	30	85

令和5年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	12	36	28	76
	再任用職員	0	3	2	5
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	13	39	30	82

令和6年度 予算		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	12	39	28	79
	再任用職員	0	2	1	3
	会計年度任用職員/月額	1	0	0	1
	合計	13	41	29	83

※ 平成30年度から令和5年度までは実績人数、令和6年度は予算措置人数別に各年度とも管理者1名あり

令和6年度（2024年度）

宝塚市下水道事業会計予算

宝塚市上下水道局



目 次

1. 予算編成方針	1
2. 業務の予定量	1
3. 予算の規模	1
4. 予算の詳細	2
5. 主要施策（雨水事業）	4
6. 主要施策（汚水事業）	5
7. 管路の耐震化の状況	6
8. 主な経営数値	7
9. 職員の内訳	8

1. 予算編成方針

水道料金について、昭和55年以来の料金改定が令和6年度に行われます。国内外の社会情勢の変化による物価上昇が続く中、使用者にとっては大きな負担増となり、今、上下水道事業に厳しい目が向けられています。そのため、これまで以上に無駄のない経営に努めることとします。

令和3年8月に見直しを行った宝塚市下水道事業経営戦略に計上した「浸水対策事業」や「武庫川ポンプ場改築事業」「重要な污水管路の更新事業」を事業の基礎としつつ、デジタル技術等を活用した取組を行います。

2. 業務の予定量

(1) 年度末水洗化人口 224,970人

住民基本台帳人口は、令和5年4月と令和5年11月を比較して846人減少しているため、年間の人口減少を1,400人と見込み、令和6年度の年度末水洗化人口を計上しています。

(人)

	水洗化人口	増減
令和元年度（決算）	229,350	-
令和2年度（決算）	228,759	△591
令和3年度（決算）	227,864	△895
令和4年度（決算）	226,429	△1,435
令和5年度（予算）	226,370	△59
令和6年度（予算）	224,970	△1,400

(2) 年間有収水量 22,815,227^m

過去の有収水量を相関分析することにより、令和6年度の年間有収水量を計上しています。

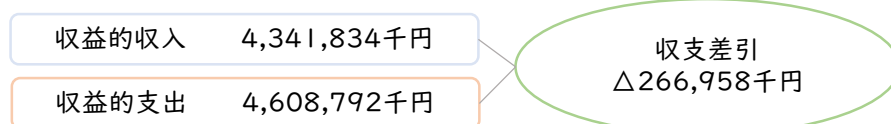
(^m)

	有収水量	増減
令和元年度（決算）	23,183,140	-
令和2年度（決算）	23,730,936	547,796
令和3年度（決算）	23,444,797	△286,139
令和4年度（決算）	22,965,897	△478,900
令和5年度（予算）	23,216,668	250,771
令和6年度（予算）	22,815,227	△401,441

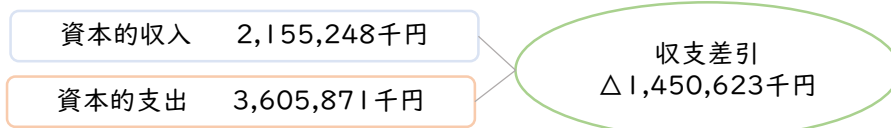
3. 予算の規模

令和6年度の支出総額（収益的支出と資本的支出の合計額）は8,214,663千円で、令和5年度の当初予算と比較して852,779千円増加しています。これは、前年度（令和5年度）と比較して、建設改良費が406,578千円増加、企業債償還金が336,972千円増加したことなどが主な原因です。

(1) 収益的収入及び支出



(2) 資本的収入及び支出



4. 予算の詳細

(1) 収益的収入及び支出

(千円)

区分	令和6年度(当初)	令和5年度(当初)	増減	前年比(%)	備考	
収入	1 営業収益	3,153,774	3,146,681	7,093	100.2	
	(下水道使用料)	(2,436,895)	(2,481,304)	(△ 44,409)	(98.2)	※1
	(雨水処理負担金)	(707,912)	(657,391)	(50,521)	(107.7)	※2
	(他会計負担金)	(6,870)	(7,378)	(△ 508)	(93.1)	
	(その他営業収益)	(2,097)	(608)	(1,489)	(344.9)	
	2 営業外収益	1,187,759	1,169,495	18,264	101.6	
	(受取利息)	(0)	(3)	(△ 3)	(皆減)	
	(国庫補助金)	(25,500)	(500)	(25,000)	(5100.0)	※3
	(他会計負担金)	(55,233)	(49,387)	(5,846)	(111.8)	
	(他会計補助金)	(398,429)	(406,205)	(△ 7,776)	(98.1)	
	(長期前受金戻入)	(703,619)	(708,464)	(△ 4,845)	(99.3)	
	(その他営業外収益)	(4,978)	(4,936)	(42)	(100.9)	
	3 特別利益	301	501	△ 200	60.1	
(固定資産売却益)	(1)	(1)	(0)	(100.0)		
(過年度損益修正益)	(300)	(500)	(△ 200)	(60.0)		
計	4,341,834	4,316,677	25,157	100.6		
支出	1 営業費用	4,236,053	4,105,514	130,539	103.2	
	(人件費)	(164,648)	(160,071)	(4,577)	(102.9)	
	(修繕費)	(243,355)	(242,213)	(1,142)	(100.5)	
	(委託料)	(244,376)	(157,727)	(86,649)	(154.9)	※4
	(負担金)	(186,796)	(171,858)	(14,938)	(108.7)	
	(流域下水道維持管理費)	(1,203,309)	(1,162,182)	(41,127)	(103.5)	※5
	(減価償却費)	(2,132,040)	(2,150,858)	(△ 18,818)	(99.1)	
	(その他)	(61,529)	(60,605)	(924)	(101.5)	
	2 営業外費用	361,238	382,548	△ 21,310	94.4	
	(支払利息)	(201,238)	(222,548)	(△ 21,310)	(90.4)	※6
	(消費税)	(135,000)	(135,000)	(0)	(100.0)	
	(その他営業外費用)	(25,000)	(25,000)	(0)	(100.0)	
	3 特別損失	1,501	1,501	0	100.0	
(固定資産売却損)	(1)	(1)	(0)	(100.0)		
(過年度損益修正損)	(1,500)	(1,500)	(0)	(100.0)		
4 予備費	10,000	10,000	0	100.0		
計	4,608,792	4,499,563	109,229	102.4		
収支差引	△ 266,958	△ 182,886	△ 84,072			

※1 (減額理由) 人口減少及び節水機器の普及等による有収水量減少のため。

※2 (増額理由) 調整池維持管理費の増加額11,328千円、経営戦略等策定業務委託のうち雨水分17,878千円、第2期ストックマネジメント計画のうち雨水分17,500千円などのため。

※3 (増額理由) 第2期ストックマネジメント計画策定に係る補助金25,000千円。

※4 (増額理由) 第2期ストックマネジメント策定業務委託50,000千円、経営戦略等策定業務委託35,757千円などのため。

※5 (増額理由) 武庫川下流域下水道における修繕費の増などのため。

※6 (減額理由) 企業債残高減少のため。

(2) 資本的収入及び支出

(千円)

区分		令和6年度(当初)	令和5年度(当初)	増減	前年比(%)	備考
収 入	1 企業債	2,017,900	832,300	1,185,600	242.4	※7
	2 国庫補助金	45,000	57,000	△ 12,000	78.9	
	3 他会計負担金	88,927	147,023	△ 58,096	60.5	
	4 工事負担金	2,751	5,812	△ 3,061	47.3	
	5 水洗便所改造資金回収金	670	690	△ 20	97.1	
	6 固定資産売却代金	0	1	△ 1	皆減	
	計	2,155,248	1,042,826	1,112,422	206.7	
支 出	1 建設改良費 (事務費)	1,473,439 (64,677)	1,066,861 (62,862)	406,578 (1,815)	138.1 (102.9)	※8
	(公共下水道整備費)	(1,123,947)	(765,784)	(358,163)	(146.8)	
	(流域下水道整備費)	(198,557)	(188,815)	(9,742)	(105.2)	
	(固定資産購入費)	(86,258)	(49,400)	(36,858)	(174.6)	
	2 企業債償還金	2,121,352	1,784,380	336,972	118.9	※10
3 貸付金	1,080	1,080	0	100.0		
4 予備費	10,000	10,000	0	100.0		
	計	3,605,871	2,862,321	743,550	126.0	
収 支 差 引		△ 1,450,623	△ 1,819,495	368,872		

資本的収支不足額1,450,623千円は損益勘定留保資金等で補填する。

※7 (増額理由) 資本費平準化債の借入額が714,000千円増加、雨水事業に係る借入額が274,600千円増加したため。

※8 主な内容は以下のとおりです。

浸水対策事業 499,650千円 (詳細は4ページに記載)

武庫川ポンプ場改築事業 67,375千円 (詳細は4ページに記載)

管路等更新事業 244,570千円 (詳細は5ページに記載)

重要な汚水管路の更新事業 278,100千円 (詳細は5ページに記載)

未水洗化区域施設整備事業 24,150千円 (詳細は5ページに記載)

※9 主な内容は以下のとおりです。

遠方監視クラウド化事業 67,876千円 (詳細は4ページ、5ページに記載)

※10 (増額理由) 資本費平準化債425,000千円の借換があるため。

5. 主要施策（雨水事業）

（1）浸水に対する取組

① 浸水対策事業（予算額499,650千円）

近年頻発しているゲリラ豪雨にも耐えられるよう、雨水排除能力の強化に取り組みます。

場所	内容
向月町	雨水排水施設の強化
星の荘	雨水排水施設の強化

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



② 調整池維持管理事業（予算額21,328千円）

市内34カ所ある調整池について、順次、土砂の堆積などによる機能低下を回復し、防災機能の向上を図ります。

場所	内容
すみれが丘1丁目	機械除草 3,400㎡ 樹木除去 600本

予算：収益的支出＞営業費用＞委託料



（2）老朽化に対する取組

① 武庫川ポンプ場改築事業（予算額67,375千円）

昭和50年の運用開始から45年以上が経過し、老朽化が進んでいます。機械設備のダウンサイジングを図りつつ、改築を行います。

場所	内容
武庫川町	ポンプ場施設の耐震補強による改築詳細設計

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（3）デジタル技術を活用した取組

① 遠方監視装置クラウド化事業（予算額42,900千円）

セキュリティの強化や利便性の向上が期待できるため、遠方監視装置のクラウド化を行います。

場所	内容
良元地区	水門ゲートのクラウドシステム構築

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費



6. 主要施策（汚水事業）

（1）老朽化に対する取組

① 管路等更新事業（予算額244,570千円）

宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき、カメラ調査結果を踏まえて更新を行います。また、第2期下水道ストックマネジメント計画の策定を行います。

場所	内容
中山桜台 外	コンクリート管 更新工事 L = 1200m
市内一円	下水道ストックマネジメント計画策定 L = 60km

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（2）耐震化の取組

① 重要な汚水管路の更新事業（予算額278,100千円）

劣化や地震などにより、下水道管路が破損した場合に、下水道使用者への影響が大きい重要な管路について耐震化工事を行います。

場所	内容
福井町 ～亀井町	コンクリート管（φ1000） L = 800m

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（3）未水洗化区域解消の取組

① 未水洗化区域施設整備事業（予算額24,150千円）

公共下水道事業認可区域のすべての市民が下水道の利益を享受できるように、道路等の整備に合わせて、未水洗化区域の下水道整備に取り組みます。

場所	内容
千種1丁目 外	汚水管路（φ200） L = 60m

予算：資本的支出＞建設改良費＞公共下水道整備費



（4）デジタル技術を活用した取組

① 遠方監視装置クラウド化事業（予算額24,976千円）

セキュリティの強化や利便性の向上が期待できるため、遠方監視装置のクラウド化を行います。

場所	内容
市内一円 (16箇所)	汚水流量計のクラウドシステム構築

予算：資本的支出＞建設改良費＞固定資産購入費



7. 管路の耐震化の状況

(1) 重要な汚水管路の耐震化率

損傷した場合に使用者への影響が大きい汚水管路、社会的影響が大きい緊急輸送路や軌道の下などに埋設された汚水管路の耐震化率です。

令和5年度は山本野里1号汚水幹線（延長L = 1,366m）の耐震化に取り組みましたが、実施予定であった中筋汚水幹線の詳細設計に時間を要し、繰越となることから、目標値を8ポイント下回る見込みです。なお、最後の路線である宝塚汚水幹線についての詳細設計が完了しており、令和6年度には目標値を上回る予定です。

（管路延長 L=6,900m）

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
目標値 (%)	47.4	57.9	68.4	79.0	89.5
実績値 (%)	40.7	56.9	64.1	71.0	90.0

(2) 汚水管路の耐震化率（全管路対象）

汚水管路総延長に対する耐震汚水管整備延長と管路改築（更正・布設替）の整備延長の割合です。宝塚市下水道ストックマネジメント計画に基づき耐震化を実施していますが、令和5年度は1.4ポイント、令和6年度は1.7ポイント、目標値を下回る見込みです。今後も確実に汚水管路の耐震化を行い、目標の達成に努めます。

（全管路延長 L=522,454m）

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
目標値 (%)	20.5	21.4	22.4	23.3	24.2
実績値 (%)	20.6	21.2	21.4	21.9	22.5

※ 目標値は下水道事業経営戦略に掲げた数値です。

8. 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用が経常収益によってどの程度まかなえているかを示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡、100%超で利益が生じています。全国平均106.1%、類似団体平均106.8%（令和4年度）と比較すると、本市の数値は低くなっており、令和6年度は100%を下回る見込みです。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
経常収支比率 (%)	106.1	99.6	102.2	100.7	98.9

(2) 純利益及び未処分利益剰余金

令和5年度は黒字を維持する一方、令和6年度はわずかに赤字となる見込みとなっています。未処分利益剰余金は毎年度の純利益の累積額です。なお、令和3年度に純利益がゼロになっているのは、この年度限りの基準として、他会計補助金の受取額を「総収益と総費用が均衡する額」に変更したためです。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
当年度純利益 (千円)	239,675	0	119,829	28,173	△47,665
未処分利益剰余金 (千円)	2,598,940	2,598,940	2,718,769	2,746,942	2,699,277

(3) 借入金残高

営業運転資金に充てるため、水道事業から借入を行っています。令和6年度は3億円の借入を予定しています。令和6年度までは借入が必要と見込んでいますが、令和7年度以降、企業債償還元金の減少により資金不足が解消され、それまでの借入金を少しずつ返済できる見込みです。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
借入金残高 (千円)	670,000	970,000	1,270,000	1,570,000	1,870,000

(4) 汚水処理原価及び使用料単価

使用料単価は1㎡あたりの平均収益、汚水処理原価は1㎡の汚水を処理するのに要する費用です。すべての年度で汚水処理原価が使用料単価を上回っています。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
使用料単価 (円)	87.1	96.6	91.8	96.7	97.1
汚水処理原価 (円)	108.4	112.3	114.4	116.0	120.8
差引 (円)	△21.3	△15.7	△22.6	△19.3	△23.7

9. 職員の内訳

平成30年度（実績人数）から令和6年度（予算措置人数）までの職員数の推移は以下のとおりです。令和5年度にストックマネジメント計画を円滑に推進するために技術職員を1名増員しています。令和6年度も令和5年度と同様23人の予算を計上しています。

(人)

平成30年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	11	2	18
	再任用職員	1	4	0	5
	嘱託職員	0	0	0	0
	合計	6	15	2	23
平成31年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	6	11	1	18
	再任用職員	1	4	0	5
	嘱託職員	0	0	0	0
	合計	7	15	1	23
令和2年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	6	13	1	20
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	7	15	1	23
令和3年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	13	1	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	15	1	22
令和4年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	14	0	19
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	16	0	22
令和5年 4月1日現在		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	14	0	19
	再任用職員	1	3	0	4
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	17	0	23
令和6年度 予算		事務職員	技術職員	技能職員	合計
	正規職員	5	15	0	20
	再任用職員	1	2	0	3
	会計年度任用職員/月額	0	0	0	0
	合計	6	17	0	23

※ 平成30年度から令和5年度までは実績人数、令和6年度は予算措置人数

令和 6 年度 宝塚市病院事業会計予算



令和 6 年(2024 年)年 2 月
宝塚市立病院

目 次

1	病院の概要	…	1
2	予算編成方針	…	3
3	業務量と財政状況	…	3
4	予算の詳細	…	6
5	主要施策	…	8
6	主な経営数値	…	10

令和6年度宝塚市病院事業会計予算の概要

1 病院の概要

- (1) 設置年月日 昭和59年(1984年)5月21日
- (2) 所 在 宝塚市小浜4丁目5番1号
- (3) 敷地面積 27,061.30㎡
- (4) 病院建物
- ア 構造・規模 鉄骨鉄筋コンクリート造(地上8階)
- イ 建築面積 9,941.00㎡
- ウ 延床面積 31,902.96㎡
- (5) 病室等許可病床数 436床
個室:78室(特別室12室、一般個室66室)
- (6) 病院の理念・基本方針(令和6年(2024年)1月1日改定)
- ア 理念
患者さんに寄り添い、地域から信頼される病院になります
- イ 基本方針
- ・ 多職種で協働し、安全で良質な医療提供に全力を注ぎます
 - ・ 地域の関係機関と協力し合える病院であり続けます
 - ・ 互いに尊重し、思いやりの精神を持って行動します
 - ・ 高い倫理観をもち、知識と技術の向上に励みます
 - ・ 公共性と経済性を意識した病院運営に努めます
- (7) 診療科目 31科
内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、血液内科、心療内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、糖尿病内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科
- (8) 組織
診療部、がんセンター、看護部、薬剤部、医療技術部、医療安全対策室、感染対策室、患者サポートセンター、臨床研究推進室、経営統括部
(部門(室)、センター等)
中央検査室、中央放射線室、中央手術室、消化器内視鏡センター、集中治療救急室、救急医療センター、血液浄化療法センター、診療情報管理室、栄養管理室、臨床工学室、放射線治療センター、化学療法センター、がん診療支援センター、リハビリテーション室、歯科衛生室、視能訓練室、地域医療室、入退院支援室、医療福祉連携室、患者総合相談室

(9) 高度医療の提供

- ア 救急告示病院
- イ ICU(集中治療室)の設置
- ウ 救急医療センターの設置
- エ 高度医療機器の充実(MRI、CT、放射線治療装置、核医学診断装置、乳房 X 線撮影装置等)
- オ 消化器内視鏡センター、血液浄化療法センター、がんセンター
- カ 集学的がん診療体制(トモセラピーによる高精度放射線治療、20 床の化学療法センター、がん診療支援センターによる相談体制の充実)
- キ 緩和ケア病棟

(10) 指定・認定施設名称一覧

兵庫県指定がん診療連携拠点病院、兵庫県指定地域医療支援病院、兵庫県指定救急告示病院(2次救急)、兵庫県指定災害拠点病院、兵庫県指定肝疾患専門医療機関、兵庫県指定生活保護法指定医療機関、兵庫県指定難病医療制度指定医療機関、兵庫県指定小児慢性特定疾病指定医療機関、兵庫県指定自立支援医療機関(更生・育成・精神通院医療)、厚生労働省指定労災保険指定医療機関、兵庫県指定身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関、兵庫県指定被爆者一般疾病医療機関、厚生労働省指定臨床研修病院、厚生労働省指定歯科医師臨床研修施設、日本医療機能評価機構認定病院(3rdG:Ver.2.0)

2 予算編成方針

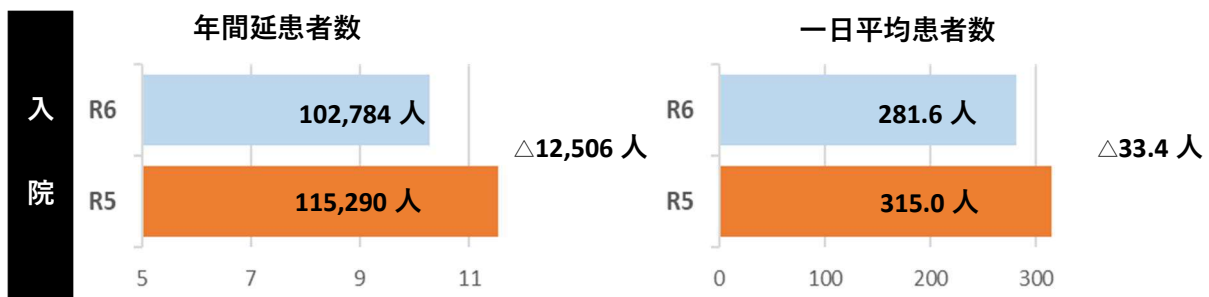
市と市立病院は、本年 3 月に「宝塚市立病院経営強化プラン」(計画期間:令和 6 年度(2024 年度)から令和 9 年度(2027 年度))を策定し、将来に向かい果すべき役割・機能や経営強化策等に加えて、新病院の整備方針を明らかにし、事業及び経営の改善に向けて取り組んでまいります。

初年度となる令和 6 年度(2024 年度)には、現病院の老朽化対策として実施する東病棟外大規模改修工事の施工のため病棟を順次閉鎖することから、診療面では入院患者受入数を制限せざるを得ず、また、収益面でも厳しい状況に陥ることが危惧されています。

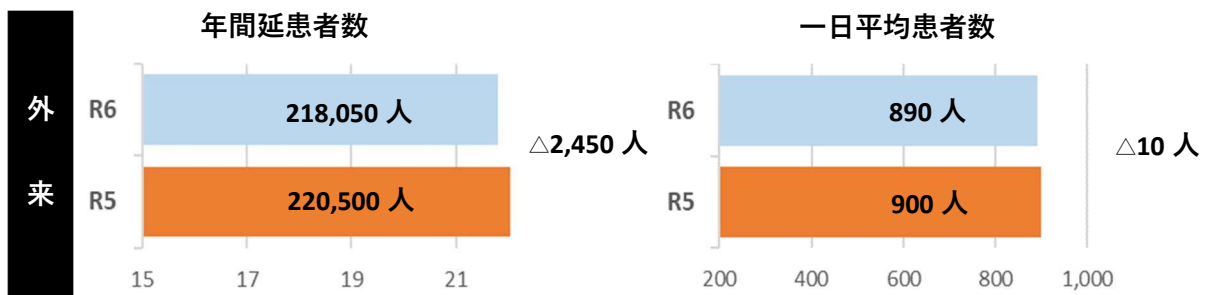
現下の厳しい経営状況の改善に向けて、令和 6 年度病院事業予算は、病床の効率的運用による収益の確保と経費の縮減により編成するとともに、東病棟外大規模改修工事の完了(令和 7 年(2025 年)9 月頃竣工予定)後の診療体制を見据えて取り組んでまいります。

3 業務量と財政状況

(1) 年間延患者数と一日平均患者数(当初予算比較)

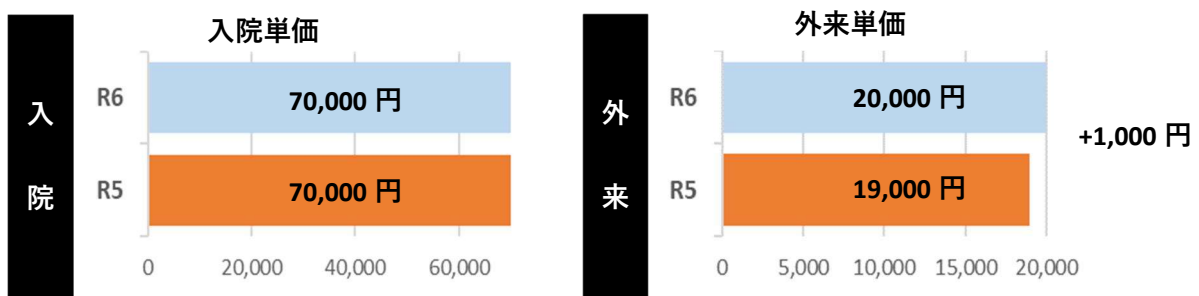


※R5 年度の暦日数は 366 日 (R6 年度は 365 日)



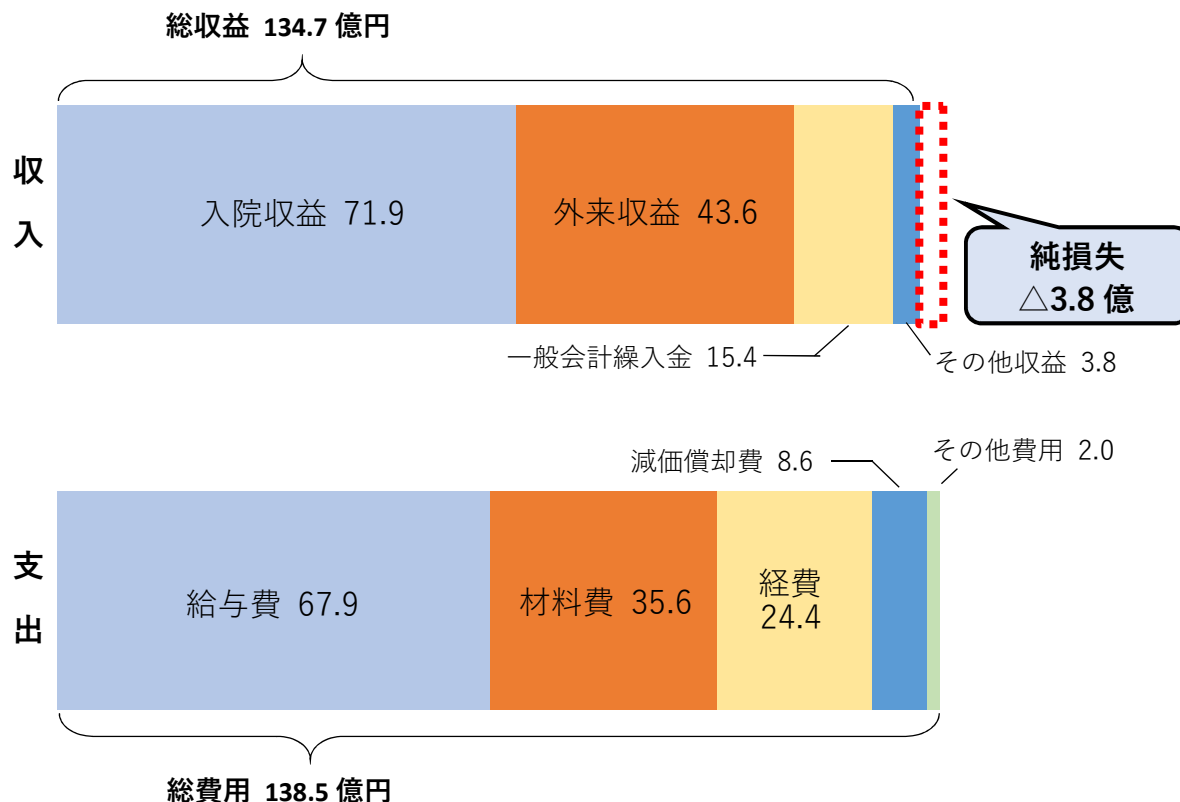
※外来開院日は、R6 年度及び R5 年度ともに 245 日

(2) 一人一日診療収入(当初予算比較)



(3) 財政状況(税込)

ア 収益的収支<経営に伴って生じた全ての収益とそれに対応する費用⇒1年間の経営成績>



【前年度との比較】

<総収益>
対前年度 **△6.0 億円(△4.3%)**

<総費用>
対前年度 **△2.2 億円(△1.6%)**

<主な内訳>

○入院収益 対前年度 **△8.8 億円**

大規模保全工事に伴う患者数減少

○外来収益 対前年度 **+1.7 億円**

単価アップに伴う収益の増加

○一般会計繰入金 対前年度 **+1.0 億円**

一般会計負担金、補助金の増加

○給与費 対前年度 **△0.8 億円**

看護師数減少による減額

○材料費 対前年度 **+1.0 億円**

高額薬品の増加、物価高騰による増額

○経費 対前年度 **△1.7 億円**

光熱水費の減額

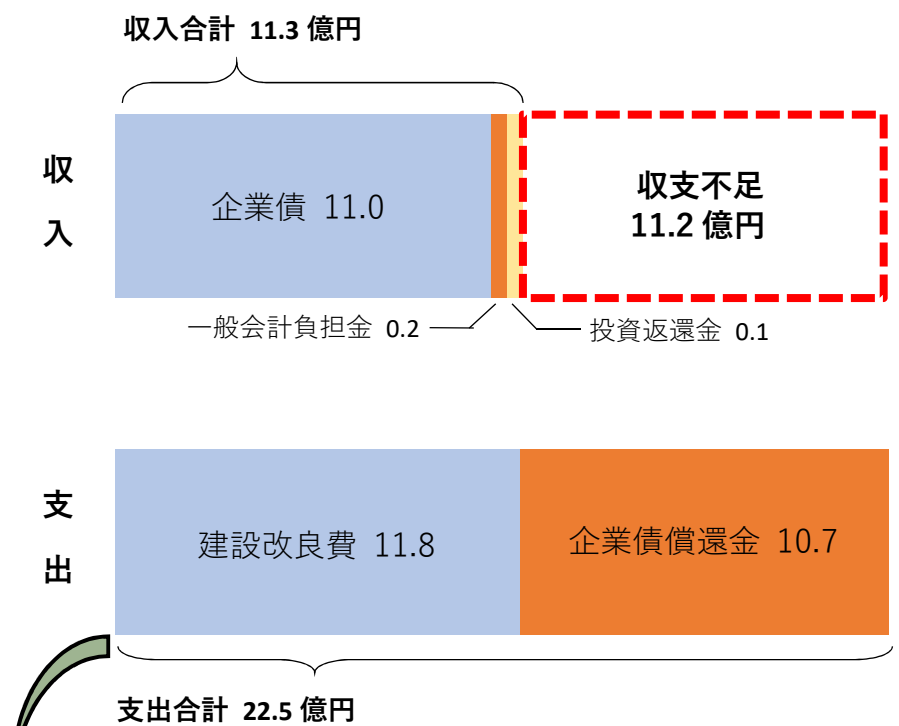
○減価償却費 対前年度 **△0.5 億円**

放射線治療装置の減価償却満了による減額



入院収益の大幅な減少に伴い、収益的収支差(収入-支出)は前年度の収支均衡から今年度3.8億円の純損失へ悪化します。

イ 資本的収支<建物や医療機器などの整備費用とその財源、借入金の返済など>



※資本的収支不足額 11.2 億円は損益勘定留保資金等で補填します。

【主な建設改良費の内訳】

- 施設改修事業 6.3 億円 東病棟外大規模改修工事ほか
- 医療情報システム更新事業 1.5 億円 電子処方箋 (新規)ほか
- 医療機器整備事業 3.3 億円 核医学診断装置(更新)ほか

4 予算の詳細

(1) 収益的収入及び支出 (税込)

(単位 千円)

	区 分	令和6年度当初	令和5年度当初	増減・比率 (%)	
収 入	医 業 収 益	12,267,300	12,951,128	△ 683,828	94.7
	(入院収益)	(7,194,880)	(8,070,300)	(△ 875,420)	(89.2)
	(外来収益)	(4,361,000)	(4,189,500)	(171,500)	(104.1)
	(他会計負担金)	(514,740)	(492,031)	(22,709)	(104.6)
	(その他)	(196,680)	(199,297)	(△ 2,617)	(98.7)
	医 業 外 収 益	1,204,131	1,122,160	81,971	107.3
	(受取利息)	(1)	(1)	(0)	(100.0)
	(他会計補助金)	(290,921)	(276,103)	(14,818)	(105.4)
	(他会計負担金)	(177,279)	(147,694)	(29,585)	(120.0)
	(国県補助金)	(16,159)	(16,159)	(0)	(100.0)
	(長期前受金戻入)	(56,649)	(50,745)	(5,904)	(111.6)
	(資本費繰入収益)	(555,499)	(527,535)	(27,964)	(105.3)
	(雑収益等)	(1)	(1)	(0)	(100.0)
	(その他)	(107,622)	(103,922)	(3,700)	(103.6)
特 別 利 益	3,001	3,001	0	100.0	
(固定資産売却益)	(1)	(1)	(0)	(100.0)	
(過年度損益修正益)	(3,000)	(3,000)	(0)	(100.0)	
収 益 合 計	13,474,432	14,076,289	△ 601,857	95.7	
支 出	医 業 費 用	13,698,037	13,916,041	△ 218,004	98.4
	(給与費)	(6,791,519)	(6,874,350)	(△ 82,831)	(98.8)
	(材料費)	(3,559,065)	(3,460,445)	(98,620)	(102.8)
	(経費)	(2,435,201)	(2,606,281)	(△ 171,080)	(93.4)
	(減価償却費)	(860,285)	(912,470)	(△ 52,185)	(94.3)
	(その他)	(51,967)	(62,495)	(△ 10,528)	(83.2)
	医 業 外 費 用	132,701	139,293	△ 6,592	95.3
	(支払利息等)	(42,482)	(53,039)	(△ 10,557)	(80.1)
	(長期前払消費税償却額)	(71,243)	(67,278)	(3,965)	(105.9)
	(消費税)	(18,975)	(18,975)	(0)	(100.0)
	(雑支出)	(1)	(1)	(0)	(100.0)
	特 別 損 失	10,001	10,001	0	100.0
	(固定資産売却損)	(1)	(1)	(0)	(100.0)
	(過年度損益修正損)	(10,000)	(10,000)	(0)	(100.0)
予 備 費	10,000	10,000	0	100.0	
費 用 合 計	13,850,739	14,075,335	△ 224,596	98.4	
収益的収支差	△ 376,307	954	△ 377,261		

(2) 資本的收入及び支出 (税込)

(単位 千円)

	区 分	令和 6 年度当初	令和 5 年度当初	増減・比率 (%)	
				増減	比率 (%)
収 入	企 業 債	1,099,700	725,400	374,300	151.6
	他会計負担金	18,888	37,822	△ 18,934	49.9
	寄 附 金	1	1	0	100.0
	投資返還金	14,257	14,257	0	100.0
	他会計補助金	0	24,353	△ 24,353	皆減
	国県補助金	0	7,215	△ 7,215	皆減
	収 入 合 計	1,132,846	809,048	323,798	140.0
支 出	建設改良費	1,178,782	817,995	360,787	144.1
	(建設改良工事費)	(626,000)	(371,900)	(254,100)	(168.3)
	(固定資産購入費)	(546,685)	(440,104)	(106,581)	(124.2)
	(リース資産購入費)	(6,097)	(5,991)	(106)	(101.8)
	企業債償還金	1,070,491	1,044,395	26,096	102.5
	支 出 合 計	2,249,273	1,862,390	386,883	120.8
資本的収支差		△ 1,116,427	△ 1,053,342	△ 63,085	

※ 資本的収支不足額1,116,427千円は損益勘定留保資金等で補填する。

5 主要施策

(1) 経営強化推進事業 653 千円(病院事業運営審議会委員報酬)

市と市立病院は「宝塚市立病院経営強化プラン」(計画期間:令和 6 年度(2024 年度)から令和 9 年度(2027 年度)までの 4 年間)を本年 3 月に策定します。本プランには将来に向け、市立病院が果たすべき役割・機能をはじめ、医師・看護師等の確保と働き方改革、新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組、施設・設備の最適化、経営の効率化等に係る取組と目標を掲げます。

これらの取組の進捗を把握し、改善していくマネジメント管理を徹底するとともに、宝塚市病院事業運営審議会において外部委員と議論を重ねて経営強化を図ります。また、新病院の整備に向けた検討を進めてまいります。

収益的支出 > 医業費用 > 給与費 > 報酬

(2) 設備等保全事業 626,000 千円

東病棟外大規模改修工事のほか、空調設備や熱源機器の更新等を実施します。東病棟外大規模改修工事では、東病棟給水縦配管の屋外化、病棟(東病棟 5~7 階、西病棟 4 階)の給湯・給水配管の更新、配管更新に伴う衛生器具(トイレ、浴室、手洗場等)の更新等を施工します(竣工時期は令和 7 年(2025 年)上半期の予定)。

資本的支出 > 建設改良費 > 建設改良工事費

(3) 医療機器整備事業 328,700 千円

最新の医療技術に対応した医療機器の導入と老朽化した機器の適時更新により、高度で安心・安全な医療を提供します。

今年度に整備を予定している機器のうち、高度医療機器に関しては核医学診断装置 2 台を更新します。うち 1 台は感度に優れ、心臓と脳の撮影に飛躍的な検査精度を有し、心臓病、認知症等幅広い疾患の検査に対応します。

※ 核医学診断装置は、アイソトープ検査又は RI 検査と呼ばれる画像診断検査に使用され、全身の臓器や骨に発生・転移したがん等を調べます。



※ 上は令和 6 年 2 月時点の現行機

資本的支出 > 建設改良費 > 固定資産購入費 (546,685 千円の内訳)

(4) 電子カルテシステムを中心とした医療情報システムの構築 145,000 千円

電子カルテシステムを中心とした医療情報系システムの安定稼働と効率的な運用を目指すとともに、医療DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進するため、ハードウェア、ソフトウェアの導入・更新、ネットワークの整備等を行います。

今年度は線量管理システム(検査による患者の被ばく線量の記録)、電子処方箋(処方箋の電子化、重複投薬・併用禁忌のチェックが医療機関・薬局間で可能)、グループウェア(メール、掲示板、スケジューラー、ドキュメント管理等)を新規導入するほか、スマートフォン型看護端末、自動精算機等を更新します。

資本的支出 > 建設改良費 > 固定資産購入費 (546,685 千円の内訳)

(5) 人工関節センター開設

医師、看護師、理学療法士が連携して、年間100件を超える人工関節(股、膝)を施術し、ナビゲーション使用手術、低侵襲といった専門性の高い医療を提供しています。

これらの充実した医療を必要とする患者と地域医療機関の医師に広く周知して、更なる集患と多職種からなるチームの活動の活性化に繋げるため、人工関節センターを設置します。

(6) 看護キャリアセンター設置

喫緊の課題である看護師人材の育成と確保を目指し、看護部内に3部門からなる看護キャリアセンターを設置します。

- | | |
|--------------|---|
| ア 「看護リソース部門」 | 専門及び認定看護師が各々の専門知識と経験を生かし、より質の高い看護を目指します。 |
| イ 「看護教育研修部門」 | 継続的な自己研鑽が積める研修システム(キャリア中断からの復帰を含む)を構築します。 |
| ウ 「採用部門」 | 就職説明会、学校訪問、看護師募集ホームページ等を担当して、看護師確保を目指します。 |

6 主な経営数値

(1) 経常収支比率

経常費用(医業費用+医業外費用)に対する経常収益(医業収益+医業外収益)の割合を示す指標です。100%で経常費用と経常収益が均衡し、100%を超えると経常利益が、また100%未満では経常損失が発生しています。

令和4年度の全国平均103.4%に対し、本市は104.5%であり、全国平均を若干上回っています。

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
経常収支比率	96.8%	103.0%	104.5%	97.7%	97.4%
全国平均	102.4%	106.0%	103.4%	-	-

(2) 純利益および未処分利益剰余金

当年度純利益は、その年度の利益を表します。また、未処分利益剰余金は毎年度の利益および損失の累計額です。

(単位：千円)

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
当年度純利益	160,065	366,610	586,971	476,586	△376,307
当年度未処分利益剰余金	366,914	733,525	1,320,496	1,797,082	1,420,775

(3) 年度末の一時借入金及び長期借入金残高

各年度末における一時的な借入金(短期的な借入金)と長期的な借入金の残高は以下のとおりです。

(単位：千円)

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
一時借入金残高	1,100,000	0	0	0	0
長期借入金残高	1,960,000	1,960,000	1,160,000	1,150,000	1,150,000

(4) 企業債借入額、償還額及び残高

企業債とは施設の建設・改修や医療機器の購入に充てるために国等から借りる資金のことです。

(単位：千円)

	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末 (見込)	令和6年度末 (見込)
企業債借入額	519,100	700,900	864,500	771,300	1,099,700
企業債償還額	764,251	834,533	1,007,236	1,040,247	1,070,491
企業債残高	6,666,507	6,532,874	6,390,138	6,121,191	6,150,400

令和5年度宝塚市病院事業会計補正予算(第4号)の要領

1 補正予算の内容及び理由

収益的収入及び支出のうち病院事業収益を 800,000 千円増額します。

(1) 病院事業収益 (特別利益) 800,000 千円増

資本的収支不足額を補填する財源が令和5年度は219,543千円、令和6年度は579,755千円それぞれ不足する見込みです。各年度の補填財源を確保するための市補助金を受け入れることに伴い、他会計補助金を800,000千円増額します。

2 補正予算の詳細

(1) 収益的収入

収 入			(千円)		
款・項	目	節	既決予定額	補正予定額	計
1	病院事業収益		13,381,232	800,000	14,181,232
3	特別利益		3,001	800,000	803,001
	3	他会計補助金	0	800,000	800,000
		一般会計補助金	0	800,000	800,000

(2) 補正額について

ア 資本的収支不足額について

資本的支出(医療機器購入、企業債償還等)に対する資本的収入(企業債借入等)の不足見込額は、令和5年度1,053,342千円、令和6年度1,116,427千円です。

イ 補填財源使用可能額

資本的収支不足額に充てる補填財源使用可能額の見込額は、令和5年度833,799千円、令和6年度536,672千円です。

※ 収益的収支の純損益から、減価償却等の現金の移動を伴わない収益・費用を除外したものが補填財源使用可能額です。

ウ 補填財源不足額

補填財源不足額は、補填財源使用可能額から資本的収支不足額を差し引き、令和5年度219,543千円、令和6年度579,755千円であり、令和5年度と令和6年度の合計額は799,298千円です。

(参考)補填財源使用可能額

補填財源使用可能額		(単位:千円)	
	令和5年度	令和6年度	
当年度純損益	△ 323,414	△ 376,307	
非資金損益項目(減価償却費等)の調整額	965,003	910,879	
① 損益勘定留保資金(当年度分)	641,589	534,572	
② 損益勘定留保資金(過年度分)	190,109	0	
③ 消費税及び地方消費税資本的収支調整額(当年度分)	2,100	2,100	
④ 消費税及び地方消費税資本的収支調整額(過年度分)	0	0	
補填財源使用可能額(①~④合計)	833,799	536,672	

資本的収支不足額(資本的収入-資本的支出)	△ 1,053,342	△ 1,116,427
補填財源使用可能額	833,799	536,672
補填財源不足額	△ 219,543	△ 579,755

※ 項目ごとに端数処理を行なっているため、合計が一致しないところがあります。